

介護相談員の声

「介護相談員として」

私は、平成21年に京都市介護相談員となり、研修を終えた後、12月から市内の特別養護老人ホーム2箇所月に2回訪問して、入所者の皆さんや家族の方とお話をした後、施設職員の皆さんと意見交換を行い、施設側への要望や改善してほしい事項を伝えています。入所者の皆さんが、明るく家庭的な雰囲気の中で日々暮らすことができる一助になるようにとの思いで、介護相談員として活動を始めました。

私が訪問している特別養護老人ホームの入所者の平均年齢は90歳に近く、100歳を超える方も元気で生活しておられます。平均寿命の男女差が約7歳あることから、入所者の70～80%は女性で、男性の入所者は20～30%となっています。

施設では、入所者さんの皆さんが外に出る機会が少ないので、季節ごとにいろいろな行事を企画して、外出する機会を設けておられます。

5月には、2台の車で入所者7名と職員4名、そして私達介護相談員2名も参加して植物園に行きました。植物園で家族の方3名と合流し、1時間ほど園内を散策。参加された入所者の皆さんは、車椅子を押される家族の皆さんと、バラ園で満開のバラの花を觀賞しながら楽しいひとときをすごしておられました。

7月の祇園祭には、日中ではありますが、鉾町を車で巡回して、山鉾を觀賞する取組も行っておられます。

8月には、地域の人達やボランティアの皆さんの参加を得て、年間を通じて最大のイベントである「夏祭り」を敷地内の空きスペースで実施しておられました。

9月の「敬老の日」には、入所者の皆さんを寿ぐ行事を盛大に実施されています。今年100歳を迎えられた女性は、家族や施設職員の皆さんの祝福を受ける中、お祝いに来られた府や市の方からお祝いの言葉や記念品を頂いたことに感激され、その喜びを私達介護相談員にも伝えていただきました。

このように、どの施設でも職員だけではなく、様々なボランティアの皆さんの協力も得て、入所者の皆さんを励まし、心豊かな生活を送っていただくために年間を通じて多くの行事やサークル活動を企画し、実施しておられます。

今後、施設でも地域やボランティアの皆さんとの結びつきを更に強め、子どもからシニアまで多くの世代の人達との様々な交流が一層盛んになれば、入所者の皆さん、とりわけ家族や親族との関わりの希薄な入所者にとっては、変化の少ない施設での生活に潤いをもたらし、様々な人たちとの交流を通して明日への＜生きる力＞が湧いてくるのではないかとの思いを持ちました。

京都市介護相談員 伊藤 博敏